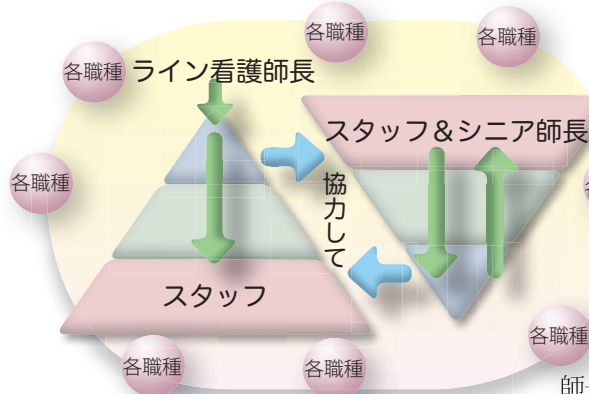


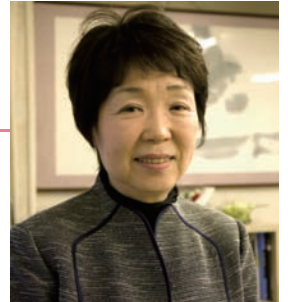
## 近森会グループ看護部の組織改革 患者さんと職員の安心をめざして

# シニア看護師長の配置



長の名称を**看護部長**に変えました。近森病院7対1病棟の8単位に新しく**シニア師長**を配置し、**1病棟2人師長体制**としました。理由は①患者さんへの看護がもっと充実するように②スタッフにはシニア(上級の)師長からきめ細かな相談や教育が受けられるように③そしてチーム医療がさらに前進する体制をめざした

年度変わりを機に看護部は組織改革を行ないました。まず各院の総看護師



近森会グループ 統括看護部長

### 梶原和歌

ことです。

設備や建物など外的に見えるものはその変化を理解しやすいですが、目に見えない組織構造の設計と組織風土を開拓していく作業はとても重要なことです。これまでの組織構造は戦後国立病院組織からスタートしたピラミッド型で指示・命令が徹底できる伝達構造のライン型でした。つまり理事長⇒看護部長⇒各院総看護師長⇒看護部師長⇒看護部主任⇒看護スタッフというように。そして組織が大きくなる過程でラインを補佐するスタッフ職能が生まれ、各種委員会活動が活発になりました。委員会はコメディカルを含む病院全体の活動と合流し、患者さん中心の医療をおこなうためのチーム医療の定着へ繋がりました。

## パラダイムシフト



近森正幸

1月下旬に鹿児島で行なわれた第24回日本静脈経腸栄養学会のランチョンセミナーで「栄養サポートチームにおけるパラダイムシフト—そして未来へ—」と題して講演をさせてもらった。今回のセミナーは、近森会グループの栄養サポートチームみんなの努力の集大成となった。

スポンサーの企業がつくってくれたDVDを観させてもらったが、しゃべっている本人が聞いても、すごいことを言っているのでは、と感じた。栄養の学会ではカロリーやタンパク、ビタミンやミネラルが論じられ、水分はまったく無視されているが、重症の臓器不全の患者さんには、水分の量がもっと

も治療に影響を与える。

低栄養の患者さんに栄養サポートをリアルタイムに行なうには、病棟に管理栄養士を配属し、栄養を評価して、栄養プランを作ればいいし、重症患者さんが入るICU、CCUには土曜、日曜、祝日も管理栄養士が出てきて早期の栄養サポートをすればいい。

高齢で重症の患者さんが低栄養にならないようサポートすることで免疫機能が保たれ、感染症などの合併症が予防でき、できるだけ早く自宅に帰れるようになる。

人が足りなければマンパワーを充実すればいいし、質が低ければ高くしてもらいたい。栄養ポンプが大量に必要ならば買えばいいと、わたしはいつも思う。

最近、先進的な企業は営業マンに数字を求めないようになって、その分、顧客満足度を高める努力をしている。私は医師やスタッフに対して「患者さんにとっていい医療をしてください」といつもお願いしている。これが患者さんの満足度につながっているのではと思う。医療は人がやるのだということと心底分かっているトップは意外に少ない。 理事長・ちかもり まさゆき

業 務	看護ライン師長	看護シニア師長
日々の部署業務運営・管理	●	
人事管理	●	
教育		●
ケアの質の管理		●

各職種は他職種と業務をオーバーラップしつつ自分の専門性を発揮し、その職種でなければできない仕事をして成果をあげる努力をしています。

2007年、医政局長通知(医師および医療関係職種などの役割分担の推進について)で、薬剤投与量の調節や ※2面へ続きます。

※1面より続きます。

トリアージ、患者・家族への治療・検査・療養生活に関する説明・指導の面から積極的に専門性を発揮する質の高い実践が**看護師の役割拡大として推奨**されました。


一方ベッドサイドは患者さんの高齢化や重症化、看護必要度、病床管理などで昔と比較にならない複雑さのため目まぐるしく、不全感に悩んできました。このような背景もあって**看護管理体制の充実と看護実践の質向上をめざし、ラインの師長とシニア師長をおく**ことにしたのです。

ラインの師長は、日々の業務運営とワークライフバランスを考えた管理を中心に。シニア師長は看護師のアセスメント能力や説明・傾聴のできる実践能力の高い職員を育てることが主な役割です。シニア師長はこれまで教育や医療安全、感染対策、システム、地域連携・退院調整などのリソース（資源）をもった師長として看護部全体の中で活躍していた師長ですから、その強みを切り口にした力も発揮してくれると思っています。

シニア師長の定期的な異動で全体としての最適化をねらっています。現場力のある主任44名を加え看護部管理職93名がスタッフナースと共に「患者さんにとってどうなのか」をいつも原点に内省し、自立した仕事ができるようにしていきたいと考えています。

シニア師長の定期的な異動で全体としての最適化をねらっています。現場力のある主任44名を加え看護部管理職93名がスタッフナースと共に「患者さんにとってどうなのか」をいつも原点に内省し、自立した仕事ができるようにしていきたいと考えています。

**手術室**  
緊急手術に物理的に可能な限り対応できるよう日々努力しています。今後ともフットワークの軽いオペ室として、頑張りたいです。(東野栄三)



津野裕紀美 主任  
東野栄三 看護師長

**CCU 病棟と、医療安全担当**



田村一恵 主任  
上総文子 主任  
工藤淑恵 看護師長  
田村裕子 主任

新しく田村さんが主任に昇格しました。3人でしっかりタッグをくんで、超急性期の看護を充実させるべく、がんばります。

**新館3階東病棟**



青木千利シニア看護師長  
高橋協子 主任  
岩井千代 主任  
小松潤子 看護師長  
山本靖代 主任

5人の顔がかわいいピンク色の桜前線に乗りました。日本的解釈の「シニア」登場で、平均年齢は右肩上がりにグット北上中です。1年後には皆さまから「素敵なお病棟」と評価を戴けるよう、スタッフ一同頑張ります。

**腎透析センター**



西村剛 看護師長  
青木操 主任

腎透析センターは、血液浄化療法を専門に行っています。昨年はフットケア認定施設にもなりました。師長・主任とも協力して、良い職場・サービスを提供していきたいと思っています。


**HCU 病棟**



森澤主任  
佐野登代子 看護師長  
井上典子 主任

主任2人体制となり3人で協力し、思いやりの心を持って、手厚い看護ができるように頑張ります。

**新館3階西病棟**



斎藤尚子 看護師長  
山下佐和シニア看護師長  
長谷川主章 主任  
黒石主任  
この春、3階西病棟は山下シニア師長を迎え、気持ちも新たにスタートをきりました。みんなで志を高く持ち、いつも笑顔絶やさず、患者さんに安心して入院生活を送っていただくことができるよう頑張っていきたいと思えます。(斎藤尚子)

# 看護部 管理職93名

※梶原和歌統括看護部長を筆頭に、看護部管理職92名の新体制が4月1日付でスタートしましたので、一堂にお披露目させていただきます。

**外来部門**



石嶺里香 脳外科主任  
浅沼信子 整形外科主任  
山崎明美 放射線科主任  
日浦利恵 外来看護師長  
森美香 内科主任  
内視鏡センター主任 公文 薫  
EPR・一般外来主任 村田美和

24時間365日受け入れを行っている地域医療支援病院として、地域の先生方からの依頼にお応えしています。地域医療連携室、手術室は連携を密に、良質の医療を提供できるよう努力しています。(日浦利恵 和田道子)

※地域医療連携室写真は4面に

**ICU 病棟**



西本清香 集中治療部・救急部教育調整担当看護師長  
町田清史 主任  
吉村千冬 主任  
安田幸美 看護師長

集中治療部・救急部教育調整担当の西本師長と、5西より安田師長を迎え、主任に町田が入り、吉村主任・全スタッフと協力し急性期病棟としての看護を実践します。(町田清史)

**新館4階西病棟**



吉永富美 シニア看護師長  
濱口富代 看護師長  
田中眞貴子 主任  
鍋島千佐 主任

連携をよくし、安心して療養できる病棟を目指して笑顔で頑張っています。

※看護部の管理職紹介は3面へ続きます。

## 第58回 地域医療講演会

札幌医科大学 胸部心臓血管外科 教授 樋上 哲哉 先生をお迎えして

# 「質の高い心臓大血管手術の実践と工夫」

2009年4月3日に、高知新阪急ホテルにおいて



◀ご講演中の樋上哲哉教授



ハートセンター 心臓血管外科部長 入江 博之

も残さないよう工夫されていました。その方法は手術中に僧帽弁を見ながら心臓を動かし、逆流部位を判定し、さらに修復を完璧にするというものでした。

島根医科大学時代からの成績はすばらしく100例を越え、長期的に再手術や僧帽弁置換術になったものはないとのことでした。

僧帽弁形成術の領域は今後も発展する領域であり、当院では樋上先生に教えていただいた方法以外にも、以前から行なっている人工腱索の複数ループによる方法、また後尖を部分切除する方法、その他いろいろな方法を組み合わせで行なっています。この手術も今後の治療に役立てていきたいと思えます。なお、当日は院外から32名、院内から98名、合計130名もの皆さまにご出席いただき、席が足りなくなるほどでした。

▲講演会を終えて記念撮影。左から長谷川生ME(臨床工学技士)、浜重直久副院長、近森正幸理事長、樋上哲哉教授、入江博之ハートセンター・心臓血管外科部長(筆者)

樋上教授は超音波メスを使用した内胸動脈剥離を開発され、日本および海外に広められた方です。色々な手術手技や器具を工夫されることでも有名で、大動脈手術に使用する風船付きカテーテルを改良されたり、その他多種多様、さまざまな功績をあげておられます。

今回は僧帽弁形成術について主にお話し下さいました。冠動脈バイパス、大動脈置換術といった心臓手術がほぼ標準化されつつある一方で、患者さん本人の弁を温存する僧帽弁手術が近年脚光を浴びています。

さまざまな方法がありますが、その詳しい方法について樋上教授は極めて平易にご説明下さいました。目標とされるのは僧帽弁置換術へのつなぎではなく、僧帽弁形成術で一生を終えられるような質の高い心臓手術とのことでした。そのために微細な残存逆流

**新館4階東病棟**



布美奈子 主任  
山脇寛子 看護師長  
近森幹子 シニア(感染対策)看護師長  
島崎真弓 主任

この春から新たな気持ちで頑張っています。明るく、安心できる療養環境作りを目標にしています。

※看護部の管理職紹介は4面へ続きます。

**新館5階西病棟**




太田垣日出美 主任  
川久保和子 看護師長  
中平律子 看護師長  
田中理子 主任

今年度より新館5階西病棟へ配属となりました。スタッフと共に患者さんの身近な看護師であるよう心がけ、がんばります。(川久保和子)

●5月の歳時記●

**芍薬** ボタン科・多年草  
文 近森病院第二分院 作業療法室 大熊 将平



「立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花」とは、古くから美人の形容として有名です。この言葉にあるように、日本では牡丹と並び称されている花です。

この二つの花、色も形もよく似ているのですが、牡丹は花木、芍薬は多年草である点が最大の違いです。また、濃艶重厚な牡丹に対して、芍薬は全体的に軽やかな印象を受けることが特徴です。

花言葉は「はにかみ」。芍薬の切り花をセロファンで包み、さらに花束の下半分をふくさで包むと、風流な贈り物になります。



イラストレーター 千光士可宙

**告** 恒例**近森会グループ写真展**開催のお知らせ  
①受付は5月13日(水)~6月24日(水)で、多彩な賞あり! ②2Lサイズ ③応募資格は、協力会社を含む近森会グループでご勤務の皆さん!

新館5階東病棟



3月からこの4人と、スタッフNs、クラークさん、アテンダントさん、医事課さん、その他病棟に関わってくれているコ・メディカルの皆さんと力を合わせて「評判のいい病棟」を目指して頑張ります。

新館6階西病棟



患者さんが安心して入院生活が送れるよう他職種や地域と連携をとりながら支援し、患者さんのQOL向上をめざしてみんなで心をつなげて心のこもった看護サービスが提供できるように頑張っていきたいと思ひます。

新館6階東病棟



神経内科を中心とした内科病棟です。急性期治療の必要な患者さんや、身体的・精神的・社会的問題を抱えられた患者さんもおられ、スタッフ一丸となり看護に当たっています。体制変更にあたり、私たち4名は入院患者さんに対し必要な看護の提供やその妥当性を検討し、さらに充実したケアを提供し安心して入院や退院後の生活を送っていただきたいと考えています。

精神科(第二分院・メンタル)



心療センターに新米師長2名【萩原博】【岡村邦弘】と新米シニア師長2名【武田直子】【西岡由江】が誕生しました。看護師長美味しい古米を目指します。ここで一首さわやかな新緑のごときミドルたちころにとどく看護をめざす(松永智香)

地域医療連携室と老人看護CNS



※コメントは誌面の関係で2面です。



リハ病院シニア師長会 これまでの師長に新たに岡部師長が加わり、4人のシニア師長体制となりました。病棟師長・主任ともスルーに情報交換し、現場との風通しも良くしながら、常に患者さんに向き合うリハ看護を支えていきたいと思ひます。

リハ病院看護師長会 このたび師長心得の辞令をいただき、身が引き締まる思ひです。今後は、他職種とのコミュニケーションの架け橋となり、患者さんの能力向上のためにチームの力を最大限に発揮できる環境作りをしたいと思ひます。



リハ病院主任会 5名が新たに主任の辞令をいただき戸惑いつづ奮闘しています。師長やスタッフに支えられながら主任同士連携をとり課題を共有し、全ユニットが成長できるように頑張ります。♪新しい風を送り込みたいと思ひます♪

近森オルソリハビリテーション病院



私たちオルソリハの師長主任は、山崎主任がリハ病院にローテーションで異動になった以外は変わっておりません。開院して一年半が経ちました。今年も飛躍の年、急性期病院との益々の連携のもと、成長していきます。(尾崎貴美)

2009年度 近森会グループ ニューフェイスの皆さんです。応援してください。

出会いに感謝。かけがえのない日々

写真の左から前から①所属②出身地③最終出身校④趣味や自己アピールなど示します。

医師のニューフェイス

山本 哲史 やまもと さとし①循環器科科長②高知市③関西医科大学④下手ながら様々なスポーツにトライしています。最近は釣りにハマっています。

依光 茂太 よりみつ しげた①リハビリテーション科②南国市③川崎医科大学④熊本から参りました。熊本では“もっこす”でしたが、高知では“いごっそう”になりそうです。

丸山 博 まるやま ひろし①内科②高知市③高知大学大学院④周囲の方々にご迷惑をかけないように、速やかに業務に環境に慣れていきます。

野中 裕子 のなか ひろこ①麻酔科(後期臨床研修医)②北九州市③高知大学④好きな食べ物はカリフラワーとカブです。お酒は強くないですが、居酒屋は大好きです。

近森 正康 ちかもり まさやす①消化器内科科長②高知市③順天堂大学④15年ぶりの高知です。色々なことにチャレンジしたいと思っています。よろしくお願いします。

津田 昇一 つだ しょういち①心臓血管外科②高知市③奈良県立医科大学④趣味は、料理、読書、アウトドア、写真。

初期研修医



長富 俊孝 ながとみ としたか①研修医②神戸市③大阪医科大学④大学では空手をかじっていて、なんちゃって武段です。どちらかというインドア派でお笑いのDVDや映画を観るのが大好きです。

鈴木 美香 すずき みか①研修医②富山県③高知大学④学生の頃は部活で山登りをしていました。自然のなかで遊ぶのが大好きです。今後は街に海にフィールドを広げていきたいです。

# デイケアから社会への橋渡しパスを作成

## 精神科の地域連携パス作成について

平成 20 年度厚生労働省補助金事業で社団法人日本精神科看護技術協会が研究した障害者自立支援調査研究プロジェクト「精神科デイケアの効果的活用と地域連携パスの開発」に、研究委員として参加した西岡シニア師長の報告記です。

メンタルクリニックちかもり シニア看護師長 西岡 由江

平成 18 年の調査で全国に精神科デイケア登録している施設数は、1,480 箇所と増えてきています。しかしデイケアの普及に伴ってリハビリ効果が上がり、精神疾患を持つ患者が地域で安定して生活が送られているかと問われると現実はそのとも言えません。多くのデイケアは、居場所提供にとどまっておらず、リハビリテーションゴール設定がなく連携技術が未熟なため「デイケア自己完結」に陥っているのが現状といえるのではないのでしょうか。

今回のプロジェクトでは、全国の精神科病床を有する病院付設精神科デイケアの施設調査と、デイケア利用者調査を行ない、**急性期治療を終えた患者がデイケアを効果的に利用し、地域移行を促進する地域連携パスを開発**しまし

日精看発行『退院支援シンプルスタイル』の虎の巻

た。研究を進めていく中で、当メンタルクリニックデイケアで試行錯誤して作りあげてきた①入院からデイケアへの入り口の工夫「導入期グループ」②デイケアから地域への橋渡しへの出口の工夫「ステップアップ方式～目的志向デイケア～」の取り組みが、**パスのモデルとなっていること**に気づかせていただきました。

さらにこの取り組みを全国普及セミナーで発表する機会もいただき学びの多い研究になりました。現代の精神科リハビリを担うのはデイケアだけではなく、色々な社会資源が充実してきていることは周知されてきています。しかし**今もなおデイケアは最も有効な精神科リハビリの軸**といえます。傷つきやすさを持っている統合失調症者のリカバリーはたやすくはありません。しかし患者さんは言わないだけで、一歩でも前に進みたいと考えているかもしれません。



「満ち足りた保護」にならないよう、**時間軸を意識し「各個人に見合った自立への支援」を常に検討し、次世代型のデイケアを目指してこれからも取り組んでいこう**と思います。

### 近森会グループ

外来患者数	17,379 人
新入院患者数	792 人
退院患者数	780 人

### 近森病院

平均在院日数	15.72 日
地域医療支援病院紹介率	86.47 %
救急車搬入件数	388 件
うち入院件数	215 件
手術件数	400 件
うち手術室実施	278 件
うち全身麻酔件数	161 件

2009年3月の診療数

企画情報室

## 新医療安全シリーズ6 “一年生”

医療安全担当看護師長

田村 一恵

今年も新入職員を迎える季節になった。今年は近森会で100名程が、オリエンテーションを経て各部署に配属され、緊張した面持ちで毎日先輩から指導を受けている。

ふと自分の入職の頃を思い出してみる（20年以上前）。新人研修もなかった当時は、今のようないくつかの先輩看護師を見習いながら少しずつ仕事を覚えていった記憶がよみがえる。“私たちの時はこんな研修なかったよな” “いまの新人さんはいいな” としみじみ感じる程、年々新人教育は充実してきている。

新入職員を羨ましく思っている私自身もピカピカではないが、3月に医療安全担当師長心得の一年生となり、病棟勤務とは違った緊張感のなか、毎日院内を巡回している。

一年生の皆さん、まだスタートしたばかりです。これからの長い道のり、安全運転でいきましょう。

## 命を吹き込まれた時計

人や物、物事には必ず出逢うタイミングや意味があるものです。新年のバレンタインでそろそろ新しい時計でも買いに…と出かけました。しかし特にこれっ！といった時計もなく、またきつと素敵な時計に出逢えるだろうとその日は帰宅しました。

祖母に気に入った時計が見つからなかったと話したところ、おもむろに古びた腕時計をもってきました。それは私が生まれる前に亡くなった祖父が、祖母へ結婚当初買って贈ったものだという手巻きの時計と、祖母が就職して初めて買ったという時計でした。「もう使えないけどお守りに…」と。

どちらも古く、部品が足りないのだと、動かないまま。近所の時計屋さんではやはり修理不能と言われ、がっかりしていたところ、店員さんが、こちらなら修理してくれるかもと、ある時計屋さんを教えてくださいました。そこ

臨床栄養部  
管理栄養士  
とこなみ  
床次 香菜



で見事修理していただき、数十年ぶりに新たな命を吹き込まれ、動き始めました。

古くって、とびきり綺麗な時計とは言えないものですが、私にとってはとびきり大切に意味のある、お守りのような時計となりました。あの日時計が見つからなかったことも、意味があったように感じました。うまくいかないことがあっても、それもまたいい明日へ繋がっているのだと祖父が教えてくれたような気がして、励まされるような気持ちで時計を付けている毎日です。

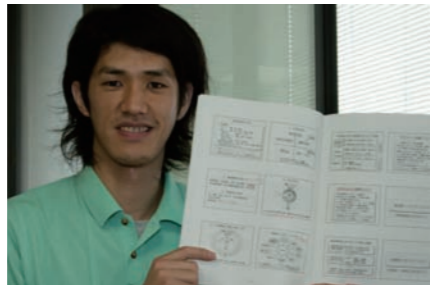
# 退院すれば終わり!ではないと実感

近森リハビリテーション病院 2階東病棟 介護福祉士 平田 翼

学校を卒業後、介護福祉士として回復期リハビリテーション病院で働きだして5年が経ち、今回初めて「回復期リハ病棟研修会」に参加させていただきました。

研修では講義とグループワークがあり、グループワークでは、他職種との意見交換や熱い思いを聞くことができ、また様々な取り組みをしていることを知ることができました。

その一つに、患者さんの退院後の生活をフィードバックしている病院がありました。連絡をとる職種は様々でしたが、MSW・リハスタッフ・病棟スタッフから1ヵ月後や3ヵ月後などに電話での調査をおこなっているとのことでした。退院後在宅生活での様子が気になる患者さんはたくさんおり、その経過を知ることで、退院後あらたに問題となる所を知ることができ、今後在宅に帰る患者さんに対して色々なリスクを考え対応することができると思いました。患者さんの退院後を知り、今後重要なことだと改めて感じました。しかし、それを行ない実行するにはたくさんの職種・地域の方々協力や



しっかり勉強してきました!

確かな情報が必要となり、統一した情報用紙(パス)などの紙面が必要となってくると思いました。

今回の研修のテーマ「地域連携」は、いま自分たちが行っている範囲ではなく、もっと大きな範囲での関わり・対応が求められてくると思いました。退院したら終わりなのか、どこまですべきなのかなど問題はたくさんあると思うが、始めてみることで良い方向に進んでいけると思います。

今回、研修に参加することで退院すれば終わりではなく、在宅に帰ってからのように生活を送るかを考えることの重要性を再認識しました。

研修に行くことで得るものはたくさんあったので皆さんも研修に参加してみてもいいと思います。

## 静脈注射スキルアップ研修・外傷コース研修

平成20年度看護師等協働推進研修モデル事業委託費対象研修

近森会グループ看護部 教育担当看護師長 岡本 充子

『医師及び医療関係職と事務職員等との間等での役割分担の推進について』(厚労省医政局通知)に基づき、看護部では医師等との協働において看護師が専門性を発揮できるよう様々な取り組みを行っています。

その一環として、3月に以下の2つの研修を開催しました。

①静脈注射スキルアップ研修は、日常行っている静脈注射を安全かつ正確に実施できるようになることを目指した研修で、この研修を通じて安全性確認の不十分さや自己流の手技に気づいてもらうことができました。

②外傷コース研修は、病院前から院内における標準化された外傷診療及びその介助に関するoff-the-jobトレーニングとして行われました。短時間の研修

でしたが、バックボードの外し方、背面観察方法、気管内挿管の介助など学んでもらうことができ、今後の外傷受け入れに役立つ研修となりました。今後もこのような研修を開催し、看護師の専門性を高めていきたいと思っています。ちなみに、これら2つの研修は、平成20年度看護師等協働推進研修モデル事業委託費対象の研修となっています。

研修 ①静脈注射スキルアップ研修: 3月13日(金)実施。看護師38名参加



②近森外傷コース研修: 3月28日(土)実施。76名参加。うち看護師36名。(左の写真)

## 新シリーズ♥♥♥ 管理部長のこだわり ヘルシー美食 6

「青葉目山時鳥初鰹」俳句を漢文調にしてみました。ぴったりの季節だと思ふ。私も一年中でいちばん五月が好きで、梅雨の前の新緑の美しさはいくつになっても嬉しいものである。鰹も4月の初々しいだけ取り柄の味よりも、5月のほんのり味の濃くなる少し柔らかめの刺身が一段と美味しい。縞模様の鮮やかな皮付き腹身がベストである。背の一部はツケにして翌日の朝、梅干し入りの鰹茶漬にすると、前夜の過飲食の胃にはとても優しい。青葉一筋直千金



川添 昇

## 鰹とトマトのマリアージュ



画 臨床栄養部 科長 吉田 妃佐

〈作り方〉は今回も全くカンタン。

- ① フルーツトマト2、3個を縦(くし形)に切り、皮を包丁でむき、種を取る。
- ② ①に軽く塩をして、ボールに入れておく。少し水が出たら、
- ③ 鰹のサクを6〜7ミリの厚さに切り(要するに刺身)、薄塩をする。
- ④ ②をボールに並べ、③を乗せる。余れば下に敷きラップして5時間程度冷蔵庫で寝かせる。
- ⑤ 白い洋皿に鰹を丸く揃べ、その上にトマトを盛り、オリーブオイルをお好みで垂らし、イタリアンパセリを乗せる。

〈食べる〉

鰹はやっぱり土佐の酒が合うと思う。キリキリ冷やした濱乃鶴酒造・微発泡の「美丈夫」がいいし、スパークリングや辛口の白ワインでもいい。

フルーツトマトの甘みと旨味ーグルタミン酸が鰹に乗り移り、鰹の旨味のイノシン酸とマリアージュする。その中にシュワシュワの「美丈夫」が放り込まれるものだから口の中は幸福の坩堝(るつぽ!)と化すること受け合いである。パルサミコ酢を少し付けてもGood!だし、粗挽きコショウを付けてもGood!だ。「橘薫る」とはこのことか、フムフムなどと言いつつ「春宵一刻直千金」を過ごしている。

## わが人生でのよきこと

大阪樟蔭女子大学大学院 人間栄養学専攻 専攻長



山東 勤弥

- 1978年3月 東京大学 理学部 化学科 卒業
- 1983年3月 大阪大学 医学部 医学科 専門課程 卒業
- 1989年6月 大阪大学大学院 医学系 外科系 博士課程 修了
- 1989年7月 国立呉病院 医師 小児外科 医員 (〜91年6月)
- 1993年7月 大阪大学 医学部 (小児外科教室) 助手 (〜99年3月)
- 1995年10月 New Zealand 国 Auckland 大学 外科教室 シニア 研究員 (〜97年3月)
- 2005年4月 大阪樟蔭女子大学大学院 人間科学研究科 人間栄養学専攻 教授 兼 兼学芸学部 食物栄養学 教授 (現在に至る)
- 2008年4月 大阪樟蔭女子大学大学院 人間科学研究科 人間栄養学専攻 専攻長

所属学会名及び社会における活動 2000年1月 日本栄養アセスメント研究会 会員・平成12年5月より平成16年5月まで 常任幹事、平成16年5月より 世話人、現在に至る。2003年10月 日本臨床栄養学会 会員・平成15年10月より 評議員、平成20年3月より 理事、現在に至る。2007年7月 NST わからん会 代表世話人、現在に至る。2007年8月 ポリフェノール研究会 評議員、理事、現在に至る。

貴院の院内報「ひろっば」が第3回BHI賞最優秀賞を取られたことは知っていましたが、まさか自分がその原稿を書くとは夢にも思っていませんでした。大変名誉なことで、まずはお礼申し上げます。

貴院との接点は、宮澤靖栄養部長との繋がりがはじめて、その繋がりに、近森院長先生の存在を知ることができ、このことはわが人生での「よきこと(幸せ)」のひとつです。いつからのお付き合いかはわかりませんが、病院の皆様方と一緒に高知や大阪の夜を楽しんだことを思い出します。無理を言って、年に1回NST回診に参加して勉強させていただいておりましたが、貴院のNSTが、年々、バージョンアップしていることに驚嘆しております。そして、院長先生がDPCによるNST運営に関して、MDS(Main-course dinner system)という概念を確立され、今年の日本静脈経腸栄養学会のランチョンセミナーでご教授いただきました。

この度、バックナンバーを拝見させて頂き、その内容の充実振りはもちろん、院長先生が毎月寄稿されていることに驚きました。先生の誠実なお人柄を物語るものと拝察します。先生は、上品なお顔立ちに、やさしい眼差しをされ、いつもにこやかに微笑まれておられますが、その内(心の中)は、「熱い」、「厚い」、「篤い」ものが充満しておられることが感じられ、勝手に「土佐にこの人あり」、「平成の坂本竜馬」と思っています。

今後も、日本のリーダーシップを取っていただき、ご指導していただきますようお願い申し上げます。

新シリーズ●近森会グループが日頃お世話になっている県内外の方々から、エッセイを寄せていただくコーナーです。どんなお話が展開されますやら。読者の皆さまもぜひお楽しみください!(ひろっば編集部)

## 聴診器と私

### 21年前のトントン

近森病院 3階東病棟

看護師長 小松 潤子

私がマイ聴診器を初めて手にしたのは看護学校を卒業後、この近森病院に就職した21年前です。学生時代、実習病院で会った医師や看護師の首に聴診器をかけた姿が格好良くて、ここが私の聴診器でした。でも実際に患者さんに触れさせていただき、血圧を測った時には、格好良さは程遠く緊張のあまり聞こえるはずの「トントン」という音がうまく聞き取れずあわてたことを覚えています。今ではその血圧測定も自動血圧計の登場で、聴診器の出番もめっきり少なくなりましたが……。

看護師は患者さんからの様々な訴えを聞き、それを適切な医療や看護の提供に役立てています。患者さんからの訴えには言葉だけでなく、表情や体内の音などがあり「言葉」からだけでは聞き取れない体内の音を聞くのに聴診器はなくてはならないものです。



これからも聴診器を上手に使いながら、併せて今までの経緯から得た第六感的な気づきや、エビデンスに基づいた観察力を磨き、より良い看護に活かしていきたいと思っています。

## テーマ お医者さんによう間かん話

会場/高知市文化プラザがるぽーと大ホール ●問い合わせ 地域医療連携室

医者について聞きそびれてしまった経験はありませんか？

そんなあれこれを、医師以外の病院職員が、できるだけわかりやすい言葉で説明します。

## 図書室便り (管理棟図書室 3月受入分)

- The Crucial Principles in Care of the Knee / John AFeagin Jr (他著)・Master Techniques in Orthopaedic Surgery Relevant Surgical Exposures / Bernard F.Morrey (他著)
- Master Techniques in Orthopaedic Surgery Reconstructive Knee Surgery 3rd Edition / Douglas W. Jackson・Master Techniques in Orthopaedic Surgery Soft Tissue Surgery / Steven L.Maran (他著)
- 最新整形外科学大系 3 運動器の治療学 / 越智隆弘 (専門編集)
- 熱傷治療マニュアル / 木所昭夫 (編著)
- 専門医のための精神科リユミエール 8 精神疾患における睡眠障害の対応と治療 / 内山 真 (責任編集)
- 一般病院・診療所のための頸動脈エコー / 金田智
- 甲状腺・頸部の超音波診断 第2版 / 小西淳二 (監修)
- 大腸癌取り扱い規約 2009年1月 第7版補訂版 / 大腸癌研究会 (編集)
- MediquickBook PART1. 患者さんによくわかる薬の説明 2009年版 ワイド版 / 水島 裕 (監修)
- 病院経営新時代のDPC対応収支分析マニュアル / 島本和明 (監修)
- 臨床指標の実際 - 医療の質をはかるために - / 医療マネジメント学会 (監修)
- 広報戦略から病院が変わる / 石田章一
- DICOM入門 / Herman Oosterwijk
- 回復期リハ実態調査報告書 / 全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会 (編集)
- 第39回 日本看護学会論文集 (成人看護II・老年看護) / 日本看護協会 (編集)
- 《寄贈本》
- 岩波講座 日本歴史 1～13巻、17～23巻 / 石母田 正 (他著)
- 岩波講座 世界歴史 全30巻 / 鈴木 勇 (他著)
- 免疫学辞典 / 大沢利昭 (他編集)
- 抗菌薬適正使用生涯教育テキスト / 日本科学療法学会抗菌科学療法認定制度審議委員会 (編集)
- PRINCIPLES OF NEURAL SCIENCE Fourth Edition / Eric R. Kandel (他著)
- NELSON Essentials of PEDIATRICS Fourth Edition / Richard E.Behrman (他著)
- Collins PATHOLOGY BASIS of DISEASE Sixth Edition / Ramzi S.Cotran (他著)
- SABISTON TEXTBOOK OF SURGERY The Biological Basis OF Modern Surgical Practice 17th EDITION / Courtney M.Townsend Jr (他編)
- ZOLLINGER'S ATLAS OF SURGICAL OPERATIONS Eighth Edition / Robert M.Zollinger Jr (他著)
- Anesthesia & Analgesia (雑誌) 100,101(1,2),102(3-6),103-107<2005-2008>
- 《別冊・増刊号》
- 老年精神医学雑誌 20巻 増刊号1 アルツハイマー病診療のスキルアップを考える / 平井俊策 (他著)
- 別冊 NHK きょうの健康 生活習慣病の薬 気になる 知りたい 効果と副作用 / 齋藤 康 (他著)
- 別冊・医学のあゆみ ここまでわかったパーキンソン病研究 / 服部信孝 (編集)
- 別冊・医学のあゆみ 定位放射線治療 UPDATE - 治療の選択肢を広げる必須の知識 / 林 基弘 (監修)
- 月刊レジデントノート Vol.11 増刊 輸液療法パーフェクト / 飯野靖彦 (編集)
- 《DVD・ビデオ》
- 「別の生きかた」～アルコール依存の問題～ / アキフィルムズ・泥濘社 (監修)

## 編集室通信

▼春になり、ウォーキングやスポーツをするにはちょうどいい季節になってきた。いま一番の楽しみは休みの日に最近買った万歩計を付けてウォーキングすること。普段は車で何気なく通り過ぎてしまうところも自分の足で歩いてみると意外な発見があったりする。身体と心のリフレッシュのためにも長く続けていきたいと思う。(つつじ)